

米国アップルは、iOSの新バージョン「iOS

5」と同プラットフォームで利用できるクラウドサービス「iCloud」を現地時間12日(日本時間13日未明)よりリリースする。iOSとしては 2010年6月リリースの「iOS

4」以来のメジャーアップデートとなるだけに、注目度は高い。iCloudとともにアップデートのポイントと機能を整理してみたい。 ■iOS

5……ソーシャルとの連携強化、アプリランチャなど iOS 5では、音楽やアプリ、写真など android タブレット 7インチ

やMac(いわゆる母艦)につなぐことなくアップデートすることが可能になるなど、200以上の新機能が搭載される。

またTwitterとも連携しており、写真やカメラ、Safari、YouTubeなどの機能から1回のタップで直接ツイートすることができる。プッシュ通知を閲覧?管理する「Notification

Center」、iOSデバイス間でテキストメッセージ、写真、ビデオを送信できるメッセージングサービス「iMessage」、新聞と雑誌購読の購入?

管理ができる「Newsstand」機能などが搭載される。

さらにカメラのフォーカス?露出ロック、切り取り、回転、赤目除去などの編集機能や、Game Centerアプリケーション内からゲームを購入できる機能、iPad 2の画面表示をApple

TVを通して無線でHDTVに表示する「AirPlay Mirroring」なども備えている。

なお、メジャーアップデートの場合、従来バージョン向けに作られているアプリは、アップデート後に使えなくなる可能性もある。iOSは基本的にダウング

レードに対応していないので、頻繁に利用するアプリがある場合は、そのアプリがiOS

5に対応しているかどうかを確かめたほうがいいだろう。 ■5GBを無償で利用できる…… iCloud

iCloudは、MobileMeを代替するオンラインストレージサービスとして、Apple

IDに登録されたiOS 5端末あるいはOS X

Lionユーザーに対して無償で5GBの容量と共に提供される。iCloudには購入した音楽やアプリケーション、ダウンロードした本、そしてフォトスト

リームの写真に加えて、Eメール、書類、カメラロール、アカウント情報、各種設定、情報も保存可能。

追加のストレージは、10GB分が年間20ドル、20GB分が年間40ドル、50GBは年間100ドルでの提供となる。

また、iCloudのストレージを活用して、以前に購入した音楽をアップルのデバイスやタブレットpcとはにダウンロードできる「iTunes in the

Cloud」も提供する。自分が買ったアイテムは、すべてのデバイス上で確認できる。 iTunes Storeで販売している楽曲であれば、CDからリッピングしたものも含めてライブラリ内のすべての楽曲を256kbps AACのDRMフリー版としてダウンロードできる iTunes

Matchも提供(利用料は年間24.99ドル)。ただし、アメリカ国内のみでのサービスであり、日本

への導入は未定だ。